

[科目名] 経営史	[単位数] 2 単位	[科目区分]
[担当者] 四宮 俊之	[オフィス・アワー] 時間： 講義時間の 30 分前頃から対応。その他にメールで可。 場所： 非常勤講師控室など	[授業の方法] shinomi-mill@mountain.ocn.ne.jp
[科目の概要] 経営史(学)とは、個人や組織によるモノやサービス、情報などの創出と提供、それによる利潤の追求などが如何になされてきたのかを、過去の企業家や企業による意思決定や行動の経緯、要件、背景などを含めて歴史的に理解、解明しようとする学問です。 そこでは、先ず経営史(学)が学門のひとつとして最初に生み出された経緯や問題意識などを概説し、次に私自身の視点や問題関心などを加えながら、日本におけるビジネスの歴史的展開を企業活動の諸側面やプロセスとステップに対応させながら多面的に解説、論述していきます。		
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 経営学や経済学など社会科学の多くは、経験科学としての性格を強く持っています。それは例えば解法や結論が論理的に正しかったとしても、それらが現実の事象に必ずしも当てはまらず、現実的な意味をもたなければ、単なる試論の一つか、空論でしかないと考えることを意味します。また、それらの事象が人間による営為のひとつとして発現してくる以上は、そこに多様な個性の現れや評価がありえることも前提としていきます。 ところで、われわれは、一様に生まれてから多くのことを自身で経験し、そこから少なからず学んでいきます。しかし、一人の人間が自らの経験のみを通じて学べることには限度があります。そこで、これまで多くの人たちが過去の他人の経験などをさかのぼって見聞、検証し、そこから得られた知見を自身の考えや行動に反映させたり、物事をより合理的あるいは効率的に成し遂げるための参考としてきました。 経営史(学)は、人間による経済的営為としての企業活動の事象を過去にさかのぼって検証し、そこから現代や将来の企業活動に役立つ歴史的な経験則や要件などを学び、さらに自らの経験も加味するなどして今後の意思決定や行動の指針に示えることを期待していく学問です。		
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 講義では、経営史(学)の問題関心や視点などを踏まえて、日本での近代ビジネスの歴史的な生成について概説します。なお、歴史学においては、一般にいわれる「正史」なるものが存在しないと考えます。歴史は、いつも時代ごとなどに次なる「読み直し」が必要となります。これは、たとえ現代において正しい歴史的事実や解釈としていても、次の時代になると往々に別の評価や解釈が生じてくることを意味します。 そこで将来の次なる時代を担う皆さんは、たとえ私の講義内容が一見正しい歴史的な理解や評価を述べているように聞き取ったとしても、その適否を改めて自分自身で問い直し、読み直してみることを心掛けてください。それこそが大学にて皆さんが学問に取り組む場合の本筋であり、到達目標であろうと思います。		
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 私の授業内容については、時折、話が分かりにくいとの指摘があります(多様な内容がよいとの意見もありますけれど...)。これは、企業家や企業による歴史的な実践の事柄について、それぞれの多様性や個性への目配りが重要であろうと考え、私自身の論述をそれほどクリアに纏めていかなかったためです。それでもできるだけ平易な説明します。学生の皆さんも、そうした多様性や個性についての理解を踏まえて、自ら考える姿勢で受講してもらえればと思います。また、板書についても、授業要旨のまとめでなく、難読字の表記などを中心に行っています。そこで皆さんには、講義の内容やそれについての自身の感想や考えを各自の工夫したやり方でノートに記入、纏めてもらいたいと思います。そのようにして作成された個人のノートは試験での持ち込みを可とします。多くの社会職業人にとっては、自身による独自のノートやメモの作成が重要な知的ソールの一つとなっていきます。		
[教科書] 指定なし		
[指定図書] マックス・ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 岩波文庫、岩波書店、1989 年。		

ベンジャミン・フランクリン『若き商人への手紙』 総合法令出版、2004 年。
 福沢諭吉『学問のすゝめ』 講談社学術文庫、講談社、2006 年。
 渋沢栄一『現代語訳 論語と算盤』 ちくま新書、筑摩書房、2010 年。
 宇田川勝、他編『企業家活動からみた日本ものづくり経営史』 文眞堂、2014 年(四宮も分担)。
 四宮俊之『近代日本製紙業の競争と協調』 有斐閣、1997 年。
 四宮俊之監修・DVD版『日本の企業家群像Ⅱ・第2 巻』丸善、2006 年(付属図書館所蔵)。

〔参考書〕

阿部猛、他編『郷土史体系 / 生産・流通(上巻。農業・林業・水産業)、(下巻。鉱工業、製造業、商業、金融)』 朝倉書店、2020 年。 その他の図書、文献については講義で必要に応じ別に適宜紹介します。図書館などで参考にしてください。

〔前提科目〕

特になし。経営学や会計学、経済学関係の多様な科目全般の履修を勧めます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末に筆記テストを実施。 評価の方法は、そこでの独自の記述内容の適否や妥当性などに注目し、また解答者各自の学習状況や講義への関与状況なども参考として総合的に行います。

〔評価の基準及びスケール〕

評価については、学生が講義内容をどのように理解したのかだけでなく、科目の到達目標で既述したように、講義で扱われた事柄や問題について**皆さん自身がどのように理解し、それについて各自なりに考えていくのか**などを重視します。なお、試験などで他人の言説や著述を無断引用(コピペ)したものについては、「**盗用行為**」としてマイナス評価しますので、くれぐれも注意してください。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

講義の内容をただ鵜呑みして聞いたり、ノートしたりするだけでなく、それらを学生が自ら考え、検証する姿勢で学んでほしいと思います。 講義の構成や内容も、そうしたことを前提として担当教員の持説や試論などをできるだけ分かるように進めていきます。皆さんも、講義前後の質問や試験などで自身の問題関心や修学の成果などを積極的に表明したり、説明するように努めてください。

〔実務経歴〕

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 経営史(学)の問題意識、課題など 内 容: 経営史(学)が資本主義的ビジネスの高まりとともに出現してくることや、企業活動の諸側面やプロセス、ステップの包括的、歴史的な理解について説明する。 ・指定図書なし。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 【理念 1】 賤商意識と国益主義 内 容: かつて多くの国でビジネスは賤しいことと往々にされたが、やがて国益主義や勤勉意識の高まりなどで評価の見直しが起きてくる(プリント資料配布を予定。ここでの配布資料は以降毎回使用予定のため持参してください)。 ・指定図書:『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、『若き商人への手紙』
第3回	テーマ(何を学ぶか): 【理念 2】福沢諭吉による自由放任主義、独立自尊の提唱 内 容: 日本における最初の資本主義的ビジネス理念としての提示を論じる。 ・指定図書:『学問のすゝめ』

第4回	テーマ(何を学ぶか): 【理念 3】 渋沢栄一による道德経済合一説などの提唱 内 容: 資本主義的拝金主義の戒め、儒教倫理の復活提唱をたどる。 ・指定図書: 『論語と算盤』
第5回	テーマ(何を学ぶか): 【理念 4】 ビジネス理念の多様化と累層化 内 容: 武藤山治の経営家族主義、F.W.テイラーの科学主義などの広がりを見て行く。 指定図書: 『企業活動から見た日本のものづくり経営史』
第6回	テーマ(何を学ぶか): 渋沢栄一による青森県での企業家活動 内 容: 第五十九国立銀行(青森銀行の前身)の設立指導や三本木渋沢農場の経営を論じる。 ・指定図書なし。但し、講義内容は未刊の『渋沢栄一と地域振興』 ミネルヴァ書房刊に四宮分担部分として所収予定(編集済)。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 【意思決定と実行 1】 企業家、経営者の現場主義 内 容: 藤原銀次郎(経験主義)、大川平三郎(工学主義)の事例 (DVD版使用を予定)。 ・指定図書: DVD版『日本の企業家群像Ⅱ・第2巻』『企業家活動からみた日本ものづくり経営史』『近代日本製紙業の競争と協調』。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 【意思決定と実行 2】 日本企業の意味決定と実行の有り様 内 容: 日本的経営の視点から意思決定と実行の独自性を論じていく (プリント資料配布を予定)。 ・指定図書: 『近代日本製紙業の競争と協調』
第9回	テーマ(何を学ぶか): 【企業統治】 日本企業における統治の有り様 内 容: 誰が企業を支配したのか、日本的あり様を論じる。 ・指定図書なし
第10回	テーマ(何を学ぶか): 【市場と技術の有り様】 近代(大)企業の市場と技術の歴史的生成要件 内 容: 規模と範囲の経済性の視点から 大企業の競争力と台頭を論じる (プリント資料配布を予定)。 ・参考図書: 『郷土史大系』(四宮一部分担)
第11回	テーマ(何を学ぶか): 【戦略】 規模や範囲の高経済性の追求 内 容: 事業分野ごとの市場と技術的な要件の異同や共通関連性から大企業による多角化を考える (プリント資料配布を予定)。 ・参考図書: 『郷土史大系』(四宮一部分担)
第12回	テーマ(何を学ぶか): 個人企業、家族(同族) 企業、財閥の経営 内 容: 財閥によるファミリー・ビジネスとしての事業展開と所有、支配形態の変遷をたどる (プリント資料配布を予定)。 ・指定図書なし
第13回	テーマ(何を学ぶか): 財閥企業の台頭 内 容: 財閥企業の経営形態の変遷を論じる (プリント資料配布を使用)。 ・指定図書なし
第14回	テーマ(何を学ぶか): 非財閥系企業の成長 内 容: リーディング・インダストリーとしての製糸、繊維業の専門化と成長を論じる (プリント資料配布を予定)。 ・指定図書なし
第15回	テーマ(何を学ぶか): 近代日本の企業家、経営者の変遷 内 容: 資本家経営者からサラリーマン経営者の時代への意向を考察する。 ・指定図書なし
試験	筆記試験 (80分を予定)